

コロナ禍で亡くなられた方は世界中で680万人になると言います。100年前に起きたスペイン風邪は実に4000万人を越えるといわれます。当時は第一次世界大戦の最中で国境をまたいだ大規模な軍隊の移動が頻繁だったことが、感染拡大の原因にもなったといわれています。

その後の大戦では、日本軍隊でも、男だけの集団生活から病魔を避けるためと称し真面目に行われたことを思い出します。24人収容の兵舎は2列・両サイドにベッドがおかれ、その間が通路です。そこにバケツを置いて水を入れます。加湿器に代り効果的ですが、夜中に用足しに起きた仲間がバケツを倒したり、足を入れたり、濡れた床をモップや雑巾で拭くことになり大騒ぎです。私はバケツを四隅に置いても効力は同じではと言いつつ、皆納得でそれ以来水騒ぎはなくなりました。また、ある日私を含んで10人と班長が30km先の西洋館建ての青木子爵邸に行く番になっていました。その頃、私達の航空隊は栃木県の黒磯に兵舎がありました。那須野飛行場の近くにある青木子爵の広大な赤松の林に、隊の飛行機「99式双胴軽爆撃機」が置かれ、飛行機の隠し場所に提供されていました。隊の飛行機は本土空襲のB29を迎撃する使命がありました。この邸宅には電気が無いので青木子爵は軽井沢に住んでいるとのことでした。何万本もある赤松を200本ほど電柱分として提供してくれただけなら、奥の部落までの道路の街灯が点き、村の人々の生活が便利になると、再三お願いしたようですが、これだけ広大な松林使用を国に提供しているのだからと耳を貸さないとのことでした。私たちの宿舎は馬用の小屋でした。そこで一週間自炊をします。野菜、米、卵は農家から買うことができるので食材は新鮮なものでした。しかし、宿舎も農家の皆さんの住いも電気が無いので夜は真っ暗です。このことで子爵の評判は極めて悪かったのです。さて、交代番が来たので青木子爵邸から宿舎に帰ると「隣の中隊で昨夜、赤痢の疑いで病院に運ばれた者がいる。この部隊も全員今日注射をする。初めてだが、軍隊では4種混合で両胸に打つ、そして来週もう一度打つ。この注射はかなり痛いから覚悟して頑張れ」といわれ、ぞっとしました。本当に打った後に異常な痛みがありました。中隊長が帰ってきて全員を並べ「班長、異常は無いか」班長は「ハイ皆元気です。唯、私の飯盒を当番が忘れましたが、こちらでは使うことがないので次の班の者に持ってきて貰います」と言った途端に中隊長は「馬鹿野郎、例え飯盒でも天皇陛下の物だ。当番は誰だ。」と怒鳴ったのだ。その当番は前の月に家に帰りたくて汽車の音がする方向へ脱走し、一週間監禁された私たちの班の生徒でした。その彼が真夜中に林の中を60キロの往復は絶対無理と思った瞬間に「私・松永です」と申し出ていました。皆黙って私を見ていました。蛇も鹿も熊もいる林や道、しかも夜中に彼一人では到底行かれないだろう。死ぬかも知れないと思いました。私も怖いですが、2・3年前にボーイスカウトの訓練で横浜山手外人墓地に一人づつの度胸試しの訓練がありました。亡くなられた人は石棺で埋葬されます。「時々光るものが飛ぶが、それは体内の燐が燃えているんだ。」と伝わっていて皆怖がっていました。昼間の訓練は経験しましたが、夜はありません。またボーイスカウトでは星で方向を見ることを学びました。私は「必ず持つて帰ります。」と言いつつ、中隊長は「松永以外だつたな」と言っていました。そして「皆並べ一人づつ前に出ろ、連帯責任だ」全員の注射



5月18日に102歳を迎えられた鎌田敏子さんを囲んで

洋舞文化の流入口・発祥の地・横浜中區に集う！
国際色豊かなジャンルのダンスチームが交流するダンスの祭典

17th 2023.7.30(日)
関内ホール(大ホール)

中区ダンスフェスティバル

時間：第一部 12:30～ ・第二部 18:00～

第36期 赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会

開催日：6月25日(日) 14:00 開演
会場：杉田劇場 / 全員ご招待！
観覧ご希望の方は上記赤い靴事務局まで
事前申し込みが必要です。



6月2日マリンFM出演の松永団長



↑YouTubeで音声を聴くことができます

今後のスケジュール

★6月25日(日) 第36期 赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会 場所：杉田劇場 時間：14:00(開演予定) 観覧：全員ご招待(事前申込制)
★7月30日(日) 中区ダンスフェスティバル2023 場所：関内ホール・大ホール 時間：第一部 12:30～ 子ども中心 第二部 18:00～ 大人中心 料金：600円
★8/18(金) 「第17回東六忌」 会場：元町あかいくつスタジオ ゲスト：野中正
★8/26(土)・27(日) 横浜市民子どもミュージカル 場所：関内ホール・小ホール 時間：8/26 ①14:00 ②18:00 8/27 ③11:00 ④15:00 料金 一般 2,500円 高校生以下 1,300円

した腕を剣道の竹刀で思い切り打ち始めました。皆倒れて痛がっていました。「松永一人の責任ではない。全体責任だ。」今打った竹刀と懐中電灯を私に差し出し「行ってこい、無事を祈る」といつて肩を押したのです。中隊長は泣いているようだった。皆に手を振って班長の飯盒を取りに行った。自分も泣いていた。訓練はしていたが初めてのことで。熊が出たら鈴を思い切つて鳴らせと鈴を渡してくれた。幸い熊には会わなかった。満天の星と輝く月が味方になった。しかし、月に照らされた西洋館の子爵邸は不気味だ。飯盒は表の枝に干してあった。東の空が白みかかって来た頃、もう大丈夫だと思った。辺り一面に美味しそうな野いちご群生しているのを見つ、水筒の水をかけて食べた。だんだん夜が明ける中、私は大声で童謡を歌った。「桜「赤い靴」「カラス」等思い切つて歌った。自画自賛で「春ちゃん日本一」と叫んだ。朝の点呼に間に合った。中隊長は「昨夜は皆にひどいことをしたが、これが軍隊だ。今言うが当番は松永ではない。彼は身代わりなのだ。最初からわかっていたが、彼ならやると思った。私は松永が自分の部下にいたことを誇りに思う」と言った。戦後のある日あの中隊長が私を横浜に訪ねてきた。いま兵庫のある市で市議員をしている。いまでも松永上等兵の心を借りて市政に尽くしていると言っていた。それから2・3年経つたある日、当番だった彼が横浜に来た。立派になっていた。お土産に生牡蠣を持って来た。私の母が珍しいと言つてフライにして皆で食べた。彼は地元でできた民間の飛行機学校で先週の日曜日に教官と初めて空を飛んだと言っていた。彼は母に私のことを命の恩人と泣きながら言っていた。

さて、新型コロナは「5類」に引き下げられ、かつての日常に戻りつつあります。これから「赤い靴ジュニアコーラス・定期演奏会」「中区ダンスフェスティバル」「横浜市民子どもミュージカル」と続きます。本番ではマスクをとつて演じます。多くの方に輝く舞台をご覧頂きたいです。スタジオでは、5月18日に102歳になられた蒲田敏子さん(昨年横浜文化賞受賞)をコーラスの皆さんでお祝いいたしました。そして、私事ですが、6月2日、マリンFMに杉田劇場の中村館長のお声がけで出演いたしました。左上のQRコードで放送全編がお聞きになれます。横浜の今昔話を楽しんで頂けたら嬉しいです。

令和5年5月31日
団長 松永 春